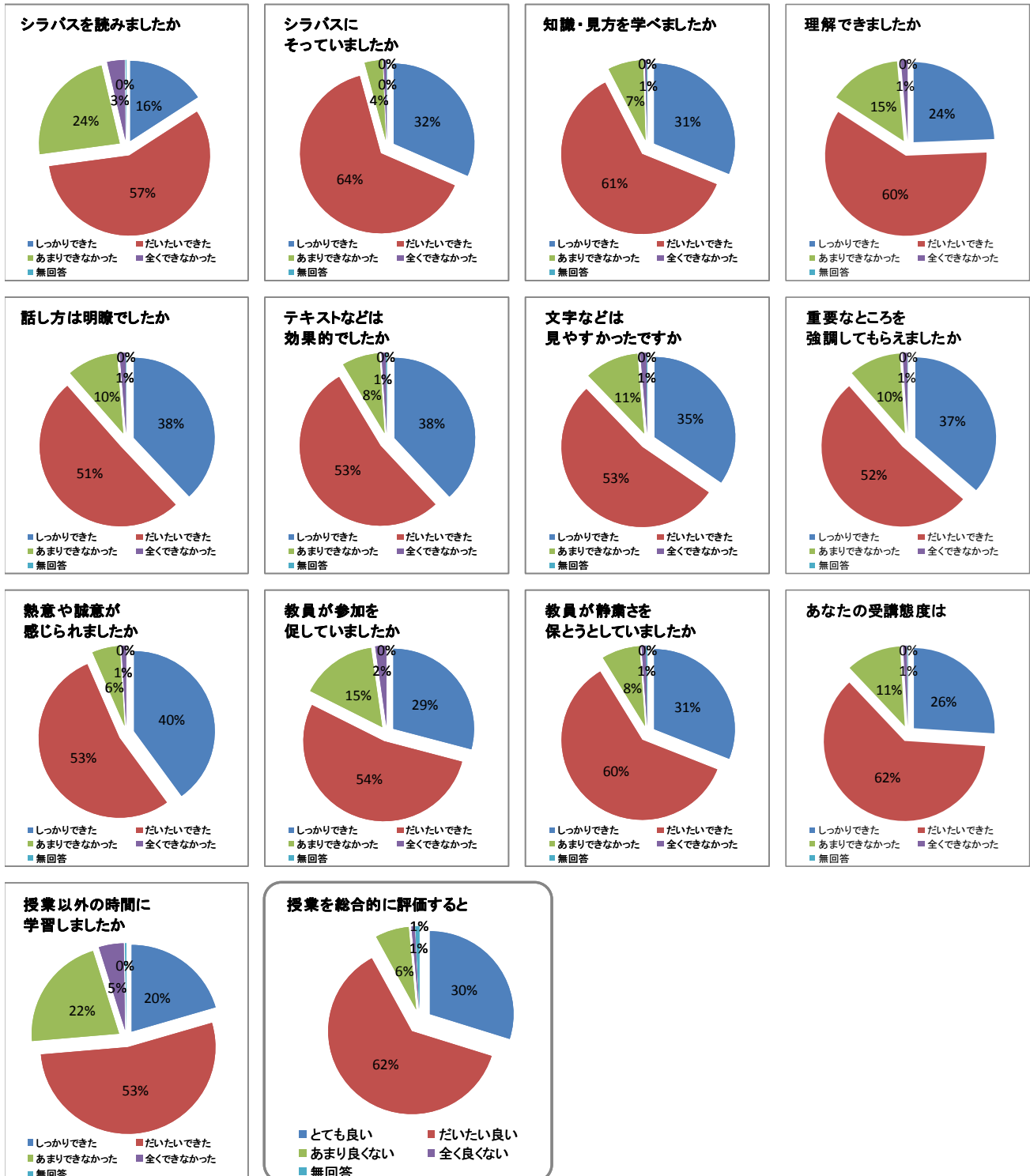


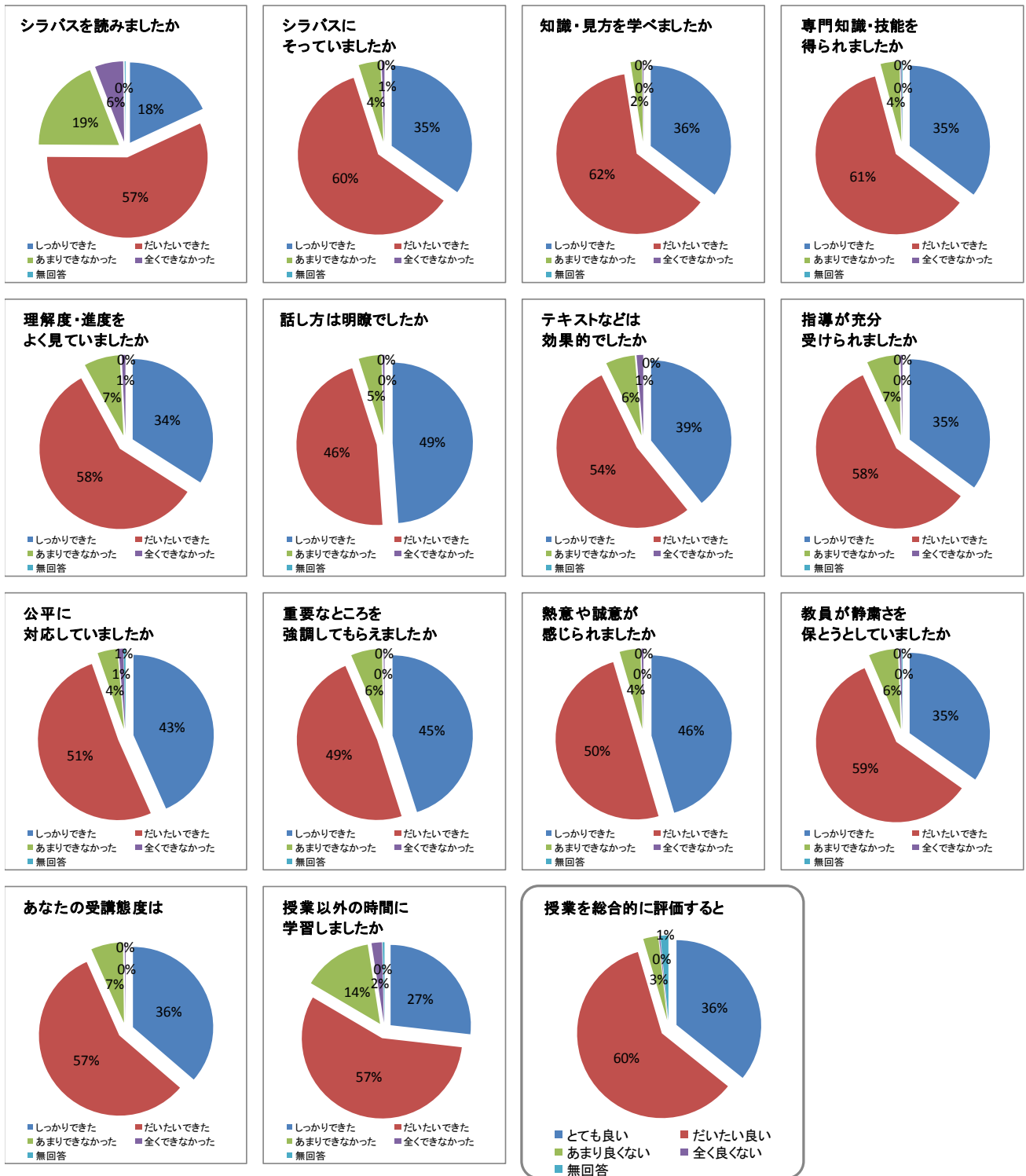
後期授業評価『学生から教員のみなさんへ』

平成 27 年度後期に全学科で、学生による授業評価を実施しました。その結果のまとめが次の図です。

□講義系授業の結果



□実技系授業の結果



<結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 92%、実技系 96%となっており、ほとんどの授業が肯定的な評価を得ているようです。

2. 学生の自己評価

- ☞ 「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 88%、実技系で 93%と、多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 92%、実技系で 96～98%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、84%の人は授業内容を概ね理解できていますが、残りの 16%の人は理解できない部分もあったようです。わからない所はそのままにせず、教員のオフィスアワーの時間に質問する等して早めに対処するようにしましょう。
- ☞ 評価が比較的低い項目が 2 つありました。1 つは講義系の“授業以外の学修”です。約 7 割の人は授業外の学修に取り組んでいますが、約 3 割の人はあまり取り組んでいないようでした。昨年度の後期と比べて 4%上がっているため、来年度はさらに努力して、復習を習慣づけていきましょう。2 つめは“シラバス”です。講義系、実技系ともに前期に比べて下がっていました。シラバスには授業目標や内容等さまざまな情報が載っています。どの授業も必ず確認するようにしてください。

3. 教員に対する評価

- ☞ 講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要どころの強調」という教授方法に関する項目は、88～91%と多くの学生から肯定的評価を得ていました。実技系の教員も、「話し方」「テキストの効果的使用」「重要どころの強調」「十分な指導」「公平な対応」が 93～95%と高評価を得ていました。多くの教員が授業でさまざまな工夫を凝らしていることがうかがわれます。
- ☞ 教員の「熱意や誠意」「静粛さを保つ」という学生への働きかけについては、講義系で 91～93%、実技系で 94～96%と多くの学生から肯定的評価を得ていました。本学の多くの教員が、熱意をもって授業に望んでいる様子がうかがわれます。

後期授業評価『教員から学生のみなさんへ』

平成 27 年度後期授業評価に対する専任の教員（非常勤を除く）から学生のみなさんへの回答をまとめました。

【幼児教育学科】

◆ 特別支援教育 I

① 授業評価に対するコメント

総合評価から検討すると、非常に有難い評価をいただき、項目ごとにも及第点をいただいている。しかし、授業への参加の方法をもう少し整理し、学生の皆さんが適切に内容を吸収できるような仕組みや雰囲気確保したいと考えている。特に資料にもついては、時間内に終われないことも多かったことが反省としてあげられる。資料映像の活用についても、学生のニーズにあった内容の精選も今後の課題である。科目の性格上、生理、病理の分野にまで踏み込んだ内容もあり、学生の気持ちや思いが揺れるこ

とも考慮しなければならないと考えている。難しい内容であっても、現場に出たときに有効な知識等もあるので、分かりやすさの中にも正確さを兼ね備えた講義を今後とも心がけていきたいと思う。毎回講義後の振り返りでは、時間のない中、多くの質問や感想、新しい情報を伝えてくれるので嬉しく思うのと同時に、学生と教員のコミュニケーションとしても活用していきたいと考えている。

②今後の授業での目標

配布資料の正確さに心がけていきたい

講義スタイルのさらなる進化を心がけていきたい

ミニ演習等を効果的に取り入れ、効果的な講義となるよう心がけていきたい

学生と教員のコミュニケーションの充実に努めていきたい

③学生のみなさんへの要望

特別支援教育は、教育・福祉・医療の分野からの多面的なアプローチが大切だと言われている。講義系の学習は、どうしても受動的になりやすく、配布資料の書き込みだけで終わってしまうことが多いように思われる。授業で学んだ知識等をさらに深めるためには、ぜひ、ボランティアへの参加や図書館の利用などが有効である。ぜひ、特別支援学校や療育教室等に出向くなどの授業時間外の学習の充実に取り組んでほしい。あと、怖がらずに、友人や地域の方々と直接向き合って、双方向のコミュニケーションを積極的におこない、自信をつけてほしい。

◆ 応用音楽Ⅱ

①授業評価に対するコメント

久々の個人レッスンでの授業評価でした。レッスン方法に対してどのような評価を受けるのか期待と不安がありましたが、非常に良い評価でありうれしく思います。また具体的なコメントが今後の授業の参考となりました。保育現場で必須となるピアノの技術習得のための授業であるため、学生自身が積極的に取り組むことが出来たこともレッスン内容が充実した要因だったと思います

②今後の授業での目標

個人レッスンは学生と教員との信頼関係も大切だと思います。今後も学生の進捗状況等も把握しながら、積極的な言葉がけを大切に技術向上のための授業展開をしていきたいと思います。

③学生のみなさんへの要望

ピアノを苦手とする人も多いと思いますが、現場では必須な技術です。コツコツと努力し前向きな姿勢を忘れず、練習に励むようにして下さい。

◆ 乳児保育Ⅱ

①授業評価に対するコメント

今年度は、学科平均よりもやや低い評価で、シラバスと話し方について気を付ける必要があったことを真摯に受け止めています。

シラバスについては、年度当初には例年通りの内容を考えていましたが、前期内容の様子や、より実践に近い内容にしたいという思いがあり、シラバスの変更をお願いして、10回目により実践に応用していただけるような新しい内容を加えました。話し方については、反応をよくみて、理解が進んでいるかどうかを確認する余裕を持つようにしたいと思いました。毎時間の振り返りとしてレポートを書いてもらい、次の時間にはコメントして返すことを繰り返すうちに、一人ひとりの思いや考え方もくみ取ることができました。レポートを読むことは私の楽しみでもあり、このようなかかわりを大切にすることが授業を大切にすることだと思っています。

②今後の授業での目標

全体のスタイルは来年度も概ね同じように行う予定です。保育所にいる子どもたちの中で、お話をすることがまだできない“未満児”と呼ばれる乳児に対して、“寄り添って保育する”とはどのようなことなのか、養護性を大切にする生活の細かい内容や発達に沿った遊びの展開などあらゆる角度から理解し実践できるようにしたいと思います。2年生の子育てサロンへの参加へつながる子育て支援についても触れていきたいと思っています。

③学生のみなさんへの要望

9月の実習前のボランティアで未満児保育のようすを観察してからは、具体的なイメージを持って学ぶことができていた学生が多かったように思います。浅く広く多くのことを学ぶこの授業で、将来子育てをする親になる立場として学ぶことと、保育士としての専門性を学ぶことができるよう期待しています。

◆ 保育教材研究

①授業評価に対するコメント

専修科目であるこの授業は、図画工作や保育内容の指導法（造形表現）の時間には取り組めないような、素材の特性を追及したり、素材を生かした保育教材をじっくりと制作したりできる内容になっています。学生が主体となって、制作活動を行い、完成した作品はこども祭で展示され、子ども達が実際にあそぶことが出来、大変好評でした。

どの学生も楽しく制作出来ていたことや、じっくりと納得のいくまで作品を完成させることができ、知識や技能が身についたこと、また、共同制作でのチームワークの経験からも学ぶことが多く、とても良かったとの評価が多く、嬉しい。

②今後の授業での目標

今後も学生の更なる知識と技術の習得を図ることのできるよう、保育現場でのニーズや子どもの興味、学生の興味などのバランスを考えながら、様々な保育教材の制作に取り組んでいきたい。

③学生のみなさんへの要望

アンケートの中に「身近なもので「こんなもの作れそう」と思えるようになった。」という言葉がありましたが、その様な感覚は保育者にとって、とても有用であると思います。

廃材や様々な自然素材から“何か作れないかな”と考え、工夫したり、閃く力が養われることを期待し

ています。

◆ 保育技術演習Ⅱ(すばなし)

①授業評価に対するコメント

- ・初めて授業評価をうけるにあたって、不安があったが、保育技術演習ということで、すばなしの実例を示してグループでの発表と全体での発表など人前で実演する機会を多くもつような授業構成を心掛けたのを評価されたのは、うれしかった。
- ・一部の学生が、グループでの練習や発表の時にふざけて、注意しても改善しないことがあった。そのことを指摘されたので、方法や働きかけの仕方を工夫していきたい。

②今後の授業での目標

- ・学生が興味を持って授業に少しでも主体的に取り組めるように、授業の流れや見通しを視覚的に掲示していきたい。
- ・授業形態を講義と実演のよさを生かし、全員がよい緊張感をもった参加型のものになるように、話し方や授業構成を工夫していきたい。
- ・保育技術のポイントをつかみ、学生同士が良い所を学び合う記録となるようなワークシートの書き方の改善を図りたい。

③学生のみなさんへの要望

【デザイン美術学科】

◆ デジタルコミック

①授業評価に対するコメント

概ね好評価だったといえると解釈します。
話し方についてやや好意的な評価となったのは、私にとってありがたい結果だと感じます。

②今後の授業での目標

特にありません。

③学生のみなさんへの要望

まじめに受講してくれてたので特にありません。

【音楽総合学科】

◆ リペア基礎（木管）

①授業評価に対するコメント

概ね全学や学科に比べ全体的に高くなっている評価については良かったと思うが、シラバスについての関心や授業外の学習においてはまだまだ向上の余地はあると思う。入学当初のみでなく日頃よりシラバスの重要性をわかりやすく説明し、確認する習慣を身に着けるようにしたい。授業外でも率先して復習などに取り組む環境作りを早い段階で行い、技術の向上に努めたい。

教員の取り組みについては、雰囲気は全体の中で低い評価になっていた。今後の授業の環境作りの為、しっかりと1年を振り返り問題点を見つけ改善し学生一人一人に満足していただける授業作りに邁進したいと考える。

②今後の授業での目標

授業全体の雰囲気を大切にして、厳しい中にも楽しさを取り入れ全員が前向きに取り組めるような工夫をし、授業に集中できるような環境作りに努力したい。また、コミュニケーションを取るのが苦手な学生においても積極的に声を掛けて意思疎通が出来るような関係づくりを心がけたい。

③学生のみなさんへの要望

すべて初めて学ぶ技術や知識などで、多くの事を覚え身に着けていかなければなりません。疑問や質問などは後回しにせずその場で解決してください。覚えた技術を身に着ける為には何度も繰り返し同じ作業を行うしかありません。授業外の時間等を有効に使ってもらいたい。

【歯科衛生学科】

◆ 小児歯科学

①授業評価に対するコメント

学生から教員の取組みに対する評価において、「シラバス」「話し方」「資料の活用」「文字や書き方」「重要な点の強調」「熱意や誠意」「学生の授業参加」「授業の雰囲気」の8項目すべてにおいて、3.1から3.4（4点満点）の評価点であり、いずれも学科の平均を上回る結果で学生からの良好な評価を得た。また、学生自身の自己の取組みに対する評価においても、「学ぶ」「理解」「授業態度」「授業外学修」の学生自身の評価で2.8-3.2（4点満点）といずれも学科の平均を上回る結果で学生からの良好な評価を得た。ただし授業外の学修が2.8であり、予習・復習を含めた授業時間外での学修のあり方に課題が認められた。

②今後の授業での目標

予習・復習を含めて授業時間外での課題設定を実施し、学生と教員との双方向の授業にしよう努め、

学生への質問やグループワークによる学習の導入を今後も実施する。授業の中で「どの部分がわからないか」、「わかりにくかった点を再度説明してほしい」、さらに「自分でここまで調べた結果、なおわからない点がある」というように、質問する意図を学生自身が明確化し、質問しやすい授業の雰囲気にしていくように取組みたい。学生自らの学習意欲を引き出す「正の強化による自発的行動変容」に、よりいっそう力点をおいた教育を継続的に展開していく所存である。

③学生のみなさんへの要望

将来の歯科衛生士として歯科医療を担う一員となる自覚を十分にもって、受講態度に気をつけるとともに予習・復習をしっかりと行って授業に積極的に出席する事。

各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館やWEB等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室（G204）まで問題点を整理して聞きにきてください。

◆ 歯科放射線学

①授業評価に対するコメント

自由記述の「改善したほうが良いところ」に、「穴埋めなどで、プリントに書き込むのはいいけど、パワーポイントで、穴埋めの部分を出してくれないので、何を書いたらいいかわからない。」とのコメントがあった。授業の基本は教科書を主体に進め、教科書の中でも重要ポイントとなる部分をそのまま穴埋めにしたプリントを作成し活用している。教科書以外の参考書等の中からも付け加えたいとしたことに関しては、穴埋め部分の字の色を変えたパワーポイントを作成し、それを見ながら書き込む形式にしている。教科書からの穴埋めプリントの解答に対しては、教科書のページをパワーポイントや黒板、あるいは口頭で示しながら行っているが、なかなか探せない学生もみられ、学生の理解の差が感じられる。学生には色々お膳立てしてもらって、このプリントさえ覚えれば試験は完璧といったものを求めるのではなく、自分の力で重要点を纏められる力を付けるよう期待したい。本年4月から2年生となる、この授業評価の対象学生は、後期には臨床実習が待っていることも含め、人から与えてもらうのを待つのではなく、全ての学びに対し自らが進んで行動することを望みます。

②今後の授業での目標

現在2年生の学生が1年次と比較すると、本年度1年生は授業を受ける体勢づくりが難しい学生が増しているように感じた。自由記述に「先生は、授業を静かに受けられるように注意をよくして下さって、毎回静かな環境で授業を受けられたので良かった。」とコメントが有ったように、授業態度が宜しくない状況が多々あった。自身が担当する他の科目の実習においても、指定された席から離れる、大きな声で私語をする、実習の後片付けができないなど、昨年度に比較し変化が大きかったように思われる。全体的には言えないが学生の価値観の変化に対し、切磋琢磨して、学生に解りやすい授業を行えるよう学生が記載する各担当科目における履修カルテ等で学生の反応を窺いながら授業改善に向けていく所存である。

③学生のみなさんへの要望

授業中に、理解できなかった点が入それぞれに多々有ったことと思います。授業中に質問する学生も

少なからず有ったが、なかなか人前では聞き難いということも有るかと思うので、是非、研究室を尋ねてもらいたいです。3年生の国家試験対策科目「歯科総合演習」においては、学生からの質問を受ける事が多くなるが、できれば1・2年の早い時期から何が理解できていないか質問事項を見つけ、早めに時間を作って研究室で解決して頂きたいと思います。

◆ 発達口腔保健演習 I

①授業評価に対するコメント

自由記述の良かったところとして、「とても楽しい授業でした。しっかり学ぶ事が出来たので良かったです。」「これからは活かせるような子供や食についてよく学べる事が出来て良かったです。」「自分がもし子供を産んだ時に役立つ知識を得ることが出来たので良かったです。」「実習があり印象に残る、ためになる授業でした。」「他の実習と違い栄養や食べ物もからめての勉強で、新しい視点で学ぶことができて良かったです。」「パワーポイントが見やすかったです。」「間食調理実習があり、学びやすかったです。」等、肯定的な意見が沢山ありとてもうれしかったです。昨年は否定的な意見がありましたが、今年度は全くなく改善点の指摘もありませんでした。昨年度はこの科目を新たに担当し、試行錯誤しながら授業を展開しました。今年度は、授業形態を2コマ続きにしたため、実習やグループワークにもじっくりと時間をかけてできたと思います。

学生の自己の取組に関する評価では、全ての項目が学科平均より0.1~0.3と高い結果となり、昨年と同様であった。また、教員の取組に対する評価では、学科平均より0.2~0.4と昨年より上回っていました。特に「話し方」「資料の活用」「文字や書き方」「参加」は全学・学科平均に比べ0.3~0.4と高く、昨年より若干数値が上がっていることは、大いに教員として励みになります。今回の結果に甘んじることなく、より良い授業を目指し授業準備を行っていきます。

②今後の授業での目標

今回の授業評価は、H26年度後期と同じ科目の授業評価を行いました。その結果と比較して、学生および教員の取り組みに対する評価とも、全項目で上昇していました。これまで、課題として挙げられたのは、「資料の活用」であったが今回は他の項目との差は特になかったです。しかし、学生に教授するうえで、資料の活用は重要な位置づけとなります。今後も学生が理解しやすい資料作成に向け取り組んでいきたいです。今年度の取り組みとして、最終講義で理解すべき点をまとめていく授業と間食調理実習を行いました。特に間食調理実習は、学生が調理した間食の献立の熱量が理解でき、好評でしたので体験学習として有意義であったと思われます。来年度も材料準備等に時間を要しますが、学生自身の理解度が増すと思われるので、継続していきます。

他に目標の継続として、授業方法ではパワーポイント・黒板の活用を適切に行い、学生が理解しやすいように学生の進み具合に配慮し行っていきます。また、小テストも随時行い、学生の理解度を深めていきます。

③学生のみなさんへの要望

今年度の受講学生は、居眠りをする学生は、見受けられなかったです。今後も、自己の健康管理をするにはどのようにしたら良いのか、自分自身で考え、授業へのレディネスをしっかりと行って欲しいです。授業は、漠然と聞いていても理解できません。予習・復習をしっかりと行い、主体的な受講を望みます。

【看護学科】

◆ 成人看護学概論

①授業評価に対するコメント

- ・昨年度は成人看護学概論・援助論が同時進行であったため、本年度は時間割を変更調整し、概論を先行しその後に援助論を講義した。そのため2科目の混同は避けられた。
- ・科目全体を概観する概念科目は理解が難しいこともあり、前期履修科目の看護学概論にフィードバックして看護の概念から「成人期の対象」にひきつけて特質を解説することで理解を容易にできると考える。

②今後の授業の目標

- ・概念の理解については課題を、毎時の授業で振り返らせ活用し理解を助けるフィードバックを行なう。
- ・学生の授業参画を促すための授業中の要約・記述時間を計画的に入れ授業進行を図る。
- ・学習課題の模範となるレポートは授業のなかで理解を得て紹介し、学習成果から達成感を引き出す。
- ・学生に提示する授業資料の内容を精選し要点を明確に作成し、学生自ら復習・探求するよう、PAD(テキスト)のページを引用資料に必ず記載し、振り返りを容易にする。

③学生のみなさんへの要望

- ・授業の資料および自己学習ノートを系統別に整理して復習や課題学習に役立てる。
- ・毎時の授業評価で疑問を明らかにしてその都度、理解・解決を図る。
- ・既習の科目で関連する内容は必ず振り返り学習をする。

◆ フィジカルアセスメント演習

①授業評価に対するコメント

毎年、「わかりやすかった」との言葉をもらい有難い。本年度はさらに「事前学習から次にやることへの理解が深まり、授業に積極的に取り組めた」という言葉があり、学生が自らの学習方法やまとめの方法を施行錯誤しながら完成させていくという高等教育本来の授業が提供できたと考えている。

②今後の授業の目標

パワーポイントを使用しての授業が主であり、資料の多さや展開の速さに対して指摘を受けたので、ポイントを強調した展開にすることと、課題に対しての個人的フィードバックを重点に行っていきたい。しかし、実習などの関係で、学内の授業が1日何コマもまとめて実施しなくてはならない現状では授業準備や事前課題、事後レポートなど学生、教員双方にとってかなり負担な時間割である。

③学生のみなさんへの要望

高等教育のため、授業中の学習だけではだけでは目標に達することは難しいので、自発的な課題も持ち方を探求することを考えていってほしい。

◆ 小児看護援助論

①授業評価に対するコメント

自己の取組みに対する評価では、シラバスの評価が低かった。その他、学科評価と比較し差がなかった。授業に結びつく課題を提示し、予習を促したことで授業の学びや理解につながったと考える。しかし、学生の課題に対する取組みには、ばらつきがある。学生全員が課題に取り組み、授業に参加できるよう工夫が必要である。

教員の取組みに対する評価で、話し方や熱意の評価が低かったことに関しては、学生の興味を引き出せるわかりやすい授業の展開が必要と判断する。

②今後の授業の目標

自己の取組みに対する評価では、シラバスの評価が低い。授業開始時にシラバス内容を配布し、到達目標、観点別評価等を説明しているが再度重点的に行う必要がある。改善点として学生が記述している「授業中のワークシートへの記載」に関しては、できるだけ学生の負担を考慮し改善していく。学生が積極的に取り組み、有効な授業の展開をしていきたい。

③学生のみなさんへの要望

提示された課題の取組みに対しては必ず行い、課題以外にも自主的に学修していただきたい。

【総合教育センター】

◆ 教育方法論(幼教)

①授業評価に対するコメント

今年度は、予習をできるように毎回の授業で使用する資料プリントを前時に配付するという方法を行ってみました。これに対して、次に何を学ぶのかがわかった、予習ができたなどの意見をいただきましたので、学生のみなさんが主体的に取り組んで学びを深めることに役だったのではないかと思います。

また、できるだけ実際の保育現場における保育者の実践と結びつけながら、そして理解しやすいように具体例を交えながら説明を行うことも心がけましたが、もう少し努力すべきだったと反省しています。

講義科目は理論的な面の内容が多く、かつ説明を受けることも多いので、学生のみなさんが積極的に実習などの体験をふまえた意見や考えを出し合える場面をさらに多くしていくように授業構成を工夫していくことが、今後の課題だと考えています。

②今後の授業の目標

小集団で一つのテーマについて意見を出し合い、これをまとめて全体に発表し、他の小集団から評価を受けていくという学修活動を、授業でさらに多く取り入れていきたいと考えています。

また、授業の理解度をチェックするためにルーブリック（わかる・できることが段階的に示されていて、自分が今どうなっているのかを具体的に理解できる表）を一部取り入れてみましたが、さらに活用の場面を増やしていきたいと思っています。

③学生のみなさんへの要望

こんなこと学んで何の役に立つのかな・・・とその昔、生徒や学生のころに思うことがよくありました。その後、もっとしっかりと学んでおけばよかった・・・と後悔して泣く思いで学び直したこともよくありました。そうした経験を積んでみて思うことは、どんなことでも一生懸命学んで、できるようになったり、わかるようになったりしたことは、人生のどこかで必ず自分の役に立ち、それによって誰か他の人のためになる何かができる、ということです。

学びを中心とした日々が送れるのは今だけかもしれません。いろいろな思いは必ずありますが、とにかく自分なりに一生懸命学んでみましょう。そのために、まずはその授業で何を学ぶのか、シラバスに目をおきましょう。そして授業で担当教員や他の学生が言っていることをしっかりと聴いたり見たりして、理解するよう、できるようになるように頑張ってみましょう。

そこから、自分の中で何かが変わり、何かが見えてくるのではないのでしょうか。



これからも 本学の教職員は
学生のみなさんの学びをさらに深めるために
よりよい授業づくりに努力していきます



アンケートにご協力いただきまして大変ありがとうございました。

前期の結果も合わせてみると、本学ではほとんどの学生が積極的な姿勢で授業に参加しているようです。教員への評価も、9割以上が肯定的評価という高水準を維持しました。他方、シラバスの確認や授業外の学修時間の向上といった改善点や、各教員のコメントにあるような個別の課題も残されています。さらなる改善を重ねて、これからも学生一人一人の学修成果を高めていきたいと考えます。